



二葉幼稚園

園のたより

2021年



11月の聖句

わたしのめぐみは あなたにじゅうぶんである
コリントの信徒への手紙2 12章9節

11月のさんびか

ちいさいひつじが

こどもさんびか改訂版55

深める



2年続きで春の親子遠足が中止になった代わりに、秋のお芋掘り遠足は初の試み、園児はバスで、保護者とは現地集合でお芋掘りのみ一緒に楽しむひと時を持ちました。

年少は、まず2列で歩くことから始めました。1学期、やっと1本列車になれたところで夏休み。2学期最初は分散登園。全員が揃い僅か2週間で迎えたふたばこフェスタ。終わったと思えばすぐに芋掘り。ハードスケジュールの中でできることを1つずつ。このコロナ禍、友達と2人で手を繋ぐ経験も少ない子ども達には、1つ1つが新鮮だけど初体験。廊下に信号付き横断歩道を造り、リュックと水筒を持ち遠足ごっこ。信号機に気づくと思わず瞳がキラキラ。ある日は自由遊び時に新聞の芋づくり。砂場に芋畑を再現し、芋掘りごっこ…。様々な遊びを通して、気持ちを高め、経験を深めながら迎えた楽しいお芋掘りでした。重いお芋はね、弱音を吐かず?皆無言で持ち帰りました!

年中もリズム表現で芋掘り遠足ごっこ。大型バスに乗り、芋畑に到着。芋掘りを楽しんで、またバスに乗り、園到着。ピアノにあわせて大いに楽しむ姿がありました。当日は綺麗に2列で並び、お芋掘りのご家族のご協力もあり、手際よく。「楽しかったな!」「面白かった!」友達と顔見合わせご満悦。

年長は2列で歩く姿も堂々と。芋掘りも一株掘った後、園の分も余裕で掘り起こし。年長のみ瑞ヶ池公園で昼食を食べ、少し遊びました。なだらかな斜面で転がったり、引っ付き虫で遊んだり、水面を見ながら♪ロック マイソウルを踊りながら歌ったり、思い思いに心地よい時間を過ごしました。

アスファルトや園庭の砂地とは違う土の感触。大地に眠る芋や虫等、様々な命との出会いに子ども達の歓喜の音が響きました。初めての芋掘りに恐る恐る?取り組み始めた保護者の皆様もお芋が見えるや笑顔になり、秋空のもと心と体に大地のエネルギーを一杯吸い込み、自然と眩いばかりの表情に変わっていました! 芋掘り遠足の目的は「秋の自然に触れ、命の不思議さに気づく。自分達で収穫する喜びの体験と収穫物は自分達で持ち帰る」たくましさ、こんなに重いものでも皆と一緒に、「僕にも持てた」「私にもできた」という達成感。現地以外ご家族のいない中で、小さな僕を頼りに、最後まで投げ出さないで自分の足で行って帰る体験。そこにはいわずもがなご家族の期待と支え、先生達の励ましと応援、子ども達の力を信じて根気よく見守る愛情の輪があります。嬉しいことに「私達も手伝います!」自主的にふたば会も声をかけて下さり、皆の思いが一つになって大きな行事を沢山の感謝の声とともに終えることができました。本当にありがとうございました!

広々とした芋畑。同じ土壌でも畑の場所、日照時間の違いや何らかの環境の変化で芋の具合に結構な差がありました。収穫物=神さまから頂いた恵を皆で分けあったように、私達も園の環境としての自分自身を振り返りつつ、それぞれの子ども達の言動に秘められた思いに心をとめながら、個々の子ども達に与えられた恵を大切に助け合い、ともに歩いていける者でありたいです。聖書に「二人は一人よりまさっている。二人が労苦すれば、良い報いがあるからだ。(中略)三つよりの綱はたやすく切れない(ヘブル10:24)」とあります。二葉は各クラスに2人の先生達。今や14人の教職員。愛と善行とを励むよう互いに努め、深められた経験や力を合わせれば鬼に金棒!【園長】

